

製品名: TAF II p135/p105 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18608**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	110kDa

抗原情報

遺伝子名	TAF4/TAF4B TAF4; TAF2C; TAF2C1; TAF4A; TAFII130; TAFII135; Transcription initiation factor TFIID subunit
別名	4; RNA polymerase II TBP-associated factor subunit C; TBP-associated factor 4; Transcription initiation factor TFIID 130 kDa subunit; TAF(II)130;
遺伝子 ID	6874/6875
SwissProt ID	O00268/Q92750
免疫原	抗血清はヒト TAF4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 941-990

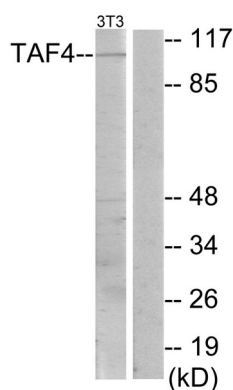
背景

RNAポリメラーゼIIによる転写の開始には、70種類以上のポリペプチドの活性が必要です。これらの活性を調整するタンパク質は転写因子IID (TFIID) です。TFIIDはコアプロモーターに結合してポリメラーゼを適切な位置に配置します。また、転写複合体の残りの部分を組み立てるための足場として機能し、制御シグナルの経路として機能します。TFIIDは、TATA結合タンパク質 (TBP) と、TBP関連因子 (TAF) として知られる進化的に保存されたタンパク質群で構成されています。TAFは、基礎転写に関与したり、コアクチベーターとして機能したり、プロモーター認識に機能したり、あるいは一般転写因子 (GTF) を修飾して複合体の組み立てと転写開始を促進したりする可能性があります。この遺伝子は、レチノイン酸、甲状腺ホルモン、およびTFIIDの転写活性化を増強することが示されている、TFIIDのより大きなサブユニットの1つをコードしています。機能: TFIIDは、様々なアクチベーターおよびリプレッサーに対するプロモーター応答を媒介する中心的な役割を果たす多量体タンパク質複合体です。AF-2Sによるレチノイン酸、ビタミンD3、甲状腺ホルモンの転写活性化を促進する。類似性: TAF4ファミリーに属する。類似性: 1つのTAFH (NHR1) ドメインを含む。サブユニット: TFIIDは、TATA結合タンパク質 (TBP) と複数のTBP関連因子 (TAF) から構成される。TFIIIC-HAT複合体の構成要素であり、少なくともTAF5L、TAF6L、TADA3L、SUPT3H、TAF2、TAF4、TAF5、GCN5L2/GCN5、TAF10、およびTRRAPから構成される。SV40ラージT抗原と相互作用する。

研究分野

基礎転写因子;ハンチントン病;

画像データ



NIH/3T3細胞ライセートのTAF4抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。